



4/5 粟生小学校入学式



4/5 寺井中学校入学式



4/7 高齢者施設花見介助



4/8 寺井高校入学式



4/11 市赤十字奉仕団総会&研修会



4/12 環境ネットワーク総会



4/15 石川県赤十字奉仕団総会



4/16 市ボラ連総会



4/17 菜の花フェスタ



4/19 自民党青年局
熊本地震義援金活動



4/20 粟生町いきいきサロン
防災講習会



4/23 福祉ボランティア「げんきかい」
総会&市政報告会



5/5 九谷茶碗まつり



5/5 九谷茶碗まつり「窯元公開」



5/15 三道山町民運動会



5/24 高齢者施設買い物介助



6/4 粟生小学校運動会



6/11 湯野小学校運動会



6/16 小学校福祉授業



6/19 市自衛消防団訓練大会



6/24 中学校福祉授業



6/25 県男女共同参画のつどい



6/26 ふれあい福祉運動会

能美市議会議員 田中 策次郎

〒923-1124 石川県能美市三道山町チ 16-2
TEL 0761-58-5037 FAX 0761-58-5209
Mail 3926@e-mail.jp http://3926jp.net/



たなか さくじろう
田中 策次郎

「絆さずな」～能美市政報告～

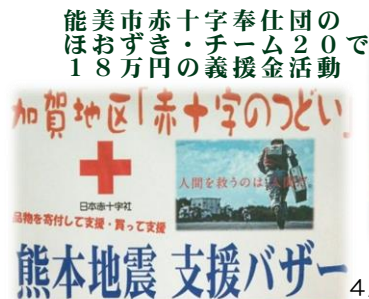
能美市内全戸配布版



- 熊本地震の支援活動を行いました！ (1p)
- 能美市防災センターが完成！ (1p)
- 6月議会 一般質問 (2p～3p)
 - 能美市地域防災計画について問う
 - 地域の経済活性化について問う
 - 障害者差別解消法の推進について問う

熊本地震支援の義援金活動を行いました！

4月14日に発災した熊本地震の支援に義援金活動と震災支援バザーを行いました☆



4/17 菜の花フェスタでは佐々木代議士・宮本周司参議にも協力頂きました 4/24 スーパー前にて



6月5日(日)加賀地区赤十字奉仕団で熊本支援バザーを開催。売り上げ全42万円を義援金に☆

能美市防災センターが完成！ (6月1日より体験施設の供用開始！)

消防本部機能に消防指令システムを備え、市民の防災力向上に地震体験装置や3Dシアターなどの体験コーナーに加え展示コーナーや会議室もあり、市民の防災力の向上と安心安全がさらに高まります。



消防指令システム

豊富な展示コーナー



3Dシアター



消火体験



強風体験



煙体験

改正された能美市地域防災計画について問う

質 能美市地域防災計画の改正で工夫・配慮した点はどこか

今年3月の能美市地域防災計画の見直し改正では、災害時の女性の関わり方が重要とされている点などを積極的に取り入れていることに加え、災害弱者となる高齢者などの避難行動要支援者の把握と支援にも対応し、さらに安心安全なまちづくりを進めるものとする。

答 吉光 年治 総務部長

女性の意見を具体的に取り入れ、女性ならではの視点で備蓄品の食品ラップやウエットティッシュ、お菓子ランタン等々、よりきめ細やかな整備ができた。避難所運営における女性の地位向上と女性ならではの視点を活かした避難者の配慮を行うなど、住民が中心となって組織する避難所運営の副委員長に女性を選任することも市の避難所開設・運営マニュアルに明記している。

市民の声を市政に活かしています！

質 防災センターの活用と、防災計画を地域の防災力の向上にどう活かしていくのか

過去の災害をみても一人一人の防災への意識が高まらなければ減災は進みません。市民に防災計画や防災意識を深めることが重要となる。6月に開所した防災センターは防災知識の向上に加え、体験型防災学習もでき素晴らしい施設である。これらをどのように地域防災力の向上に活かしていくのか。

答 吉光 年治 総務部長

避難行動要支援者名簿を作成し、消防本部の高機能指令センターシステムに情報の提供に同意を戴いた方の名簿を載せることができた。火災や災害発生時の逃げ遅れを防ぎ迅速な救助の有効な手段となる。

防災センターを利用し地域の皆様が防災体験を共有し、地域ぐるみで防災減災力を高める努力をしていただきたい。



質 町会での具体的な災害時の行動計画づくりを支援することが出来ないか

災害時に行動を取ろうとした時、協力する気持ちはあるが何をすれば良いのか分からず、間違った行動を取る場合が往々にあります。これによって災害現場や避難所が混乱し、本来ならば町会でやるべき防災活動を、行政に役割を任せようとしてしまう事が多いのです。このような混乱を避けるために災害が起こる前に、それぞれの町会が主体的に動けるような具体的な行動計画を作る事が必要です。

各町会によって行動計画は違い、各町会だけに任せておいてもなかなか進みません。市や各町の防災士なども協力し、町会での具体的な災害時の行動計画づくりを支援することが出来ないか

答 吉光 年治 総務部長

防災対応については、まさに住民の意識改革も必要で、全てを行政の責任といった感覚では、自分自身の安全もままならぬ事態となることが懸念される。自助・共助公助の精神で市民が連携しながら危機を乗り越えていくという防災意識の啓蒙にも努めていく必要がある。平成25年7月水害時の避難勧告時にも市役所からの指示によるもので避難してやるのだという一部市民の感覚があったように感じた。避難するのは自分自身の安全のためという当たり前の認識に立っての行動が基本で、緊急時に際して防災グッズの準備、家族間の避難時の連絡や近隣住民同士の連携の打ち合わせなどの対策など、まず市民みずから積極的に行動する事が必要と考える。各町会においてもこのような視点に立ち、まず地元で地区防災計画を地域の特性に合わせて計画を立てていくことが大事であり、計画づくりに苦慮している町会があれば支援していく。



地域の経済活性化について問う



質 市発注の指針について問う

県外の企業を誘致し、雇用を拡大し、若者に魅力ある能美市づくりを行っている今の施策に加えて、市内企業の経営安定を促進するためにも、地域企業間の取り引きの促進の後押しや、地域の核となる農業・商店などを巻き込み、地域でお金が回る仕組みをさらに取り組み支援する事が必要。市の発注する建築・土木工事や商品等の入札や購入も、さらに地域を意識する事が必要。地域を意識し、市はどのような指針で市内外に発注を行っているのか。

答 吉光 年治 総務部長

地域経済の活性化については趣旨に同感する。今後の内外の経済情勢を勘案すると、これまで多数の企業が進出しているような社会情勢ではなくなっており、今後はそのような中でさらなる地場産業の活性化を図り雇用人口を増やせるか知恵を絞るときにきている。幸い能美市には全国的にも技術水準が高く競争力の強い中小企業が集積しており、優良企業同士のマッチング、情報交換などの手法を通じ既存企業が新たな製品開発と販路開拓などに取り組む場の創設を検討している。営業所を有することなど地域要件を付加し入札を制限している。大規模工事や特殊技術を要する工事には共同企業体を結成し市内業者の受注機会を確保しており、物品等についても、市内業者の優先的な受注機会を確保し、地域経済の活性化の一助として地元への受注機会の確保に努める。

障害者差別解消法の推進について問う



質 法の施行による学校現場での想定と対応は

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が今年4月に施行された障害を理解し個人を尊重し、支え合う共生社会の考え方を進めることが必要。学校現場での合理的配慮の提供などの想定と対応は。学校に高齢者や理解ある方々を地域の力として協力は可能であるのか

答 中嶋 敏一 教育長

障害者差別解消法の趣旨を理解し、学校教職員が障害者に関する理解を深めることが重要であると考え、市内全職員を対象に研修会を開催する。障害のある児童生徒及び保護者と話し合い、可能な合理的配慮を提供したい。財政的な支援が必要な場合は教育委員会として検討したい。学校地域元気アップ事業を通じ地域の方が学校にかかわることを検証していく。



質 学校と本人や保護者の調整はどのように行うのか

差別解消法では「合理的配慮の不提供」は禁止されています。しかし本人や保護者が求める内容と学校側の対応が一致しない場合は十分考えられ、そうしたときに早急な解決に向けて相談や調整が必要となります。このような調整をどのように行うのか

答 中嶋 敏一 教育長

市の特別支援教育について検討する能美市教育支援委員会に助言を受け解決策を図る。各学校の教職員に法の趣旨を理解していただき各保護者や地域の方々に周知を図っていく

質 差別の解消・合理的配慮や啓発活動の今後の取組みは

市は今後、差別の解消・合理的配慮や啓発活動にどのように取り組むのか

答 勝山 與四久 健康福祉部長

市職員に対し、障害のある方に適切に配慮・対応するため、現在事例を含めた対応要綱を策定中である。差別の解消や合理的配慮は、障害を正しく理解する事から始まると考え、今後さらに相談窓口を周知し継続的に市内福祉事業者との勉強会や市民の方への出前講座などを実施し、今年度策定する第3次障害者計画に施策を組み入れ、障害者差別解消に向け取り組む。

